

成果指標				
成果指標	相談件数			
指標設定の考え方	高齢者への事業内容等の周知を図ることにより、積極的な事業活用を図る。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	
目標	100件	100	150	0
実績	90	114	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	様々な悩み事に対して、弁護士や行政書士等の専門的立場から適切な助言を行うことで、不安の軽減や解消につながっている。昨年度より相談件数も増加しており定着しつつある。継続して実施していく。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	相談件数も増加してきており、高齢者の不安の軽減や解消に繋がっており、今後も事業を継続して行う必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮る。
意見、課題	行政評価委員会抽出事業 (二次評価者コメント) 相談件数の増加に示されるとおり、高齢者心配ごと相談事業の重要性は増しており、その事業効果を検証するため、行政評価委員会に諮る。

行政評価委員会の答申

<p>外部評価 (行政評価委員会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・月におおむね10件の相談である。先生が外向けばもっと話が出るかもしれない。運用に関し検討いただきたい。 ・社協に委託しており、お願いのようになっている。もっと指示を出すなどお互いが内容を作り合ってほしい。 ・高齢者福祉サービスが手厚いというより、重複している部分がある。全部不必要とは言わないが考え直した方がよい。 ・86件の弁護士相談を80万円でよくやってくれると思う。弁護士や行政書士にガイドするだけなら社協でなくてもよい。
---------------------------	--

経営者会議の最終判断

<p>事業の方向性</p>	<p>現状のまま継続する。</p>
<p>意見、課題</p>	